

～ 頑固な子牛への目隠しプレイ ～

先日、生後5日齢で不調の和牛子牛の往診した際の体験談を紹介します。

稟告は生後元気で哺乳欲はあるが自分でニップルを吸わないため、5日間ストマックチューブで哺乳していたが徐々に活力も落ちてきてふらつき始めた、という状態でした。往診時、下痢、脱水かつ貧血を起こしており、その日はそれらを補正する点滴治療をおこないました。翌日、活力は戻り哺乳欲はありそうな素振りは見せるのですが、やはり自分からニップルに吸い付こうしません。

この状態、出生後すぐに人工哺育をすることがほとんどの酪農家さんでのホルスタイン子牛ではあまり見ない事例ですが、和牛繁殖農家さんで和牛子牛出生後に数日から数週間親付け哺育をしてから人工哺育に切り替えるときにはよく起こることのようです。ヒトの赤ちゃんでもそうですが、お母さんからずっと母乳を飲んできた赤ん坊はいきなりはなかなか哺乳瓶で飲んでくれませんもんね。親付けした子牛をある日から人工哺育する場合は、いきなり隔離された恐怖、哺乳瓶や哺乳者の見た目や匂いに恐怖を感じて飲まなくなるようです。ただ、農家さんからお話を伺っていると、特に和牛は親子付けするしないに関わらず、頑固で自分が飲みたいと思うタイミングにならないと飲み始めない子が多いらしく、今回のようにフラフラになっても頑固に飲もうとし続けられない子牛もチラホラいるようです。



こんな頑固な子牛に絶大な効果を発揮するのが目隠し哺育。親付けして人工哺育で飲まない子牛用に販売されている目隠しマスクもあるようですが、タオルをかぶせてやるだけでも十分な効果を発揮します。親牛の匂いを擦りこんであげたタオルやマスクを子牛の目元に覆い、目で見える恐怖を取り除いてやりながら母牛の匂いを感じさせてあげるプレイです。

さっそく5日間もフラフラになりながらも「武士は食わねど」精神で全くミルクを飲もうとし続けなかった先ほどの頑固一徹和牛子牛に対して、農家さんに目隠しプレイで懐柔する方法を紹介し試していただいたところ、驚くほどすぐに哺乳瓶に吸い付いて飲み始めてくれました。あとは数回目隠ししながら哺乳してニップルに慣れさせてあげ、徐々にタオルを取ってやればOKです。

ホルスタインでもまれに生後2～3日で元気だけどニップルに吸い付かない子牛があり、このような場合も目隠しプレイが有効なようです。これまで子牛と我慢比べをされていた方がいらっしやいましたらぜひ一度お試しを！

